

超高齢看護学特別研究
Research on Nursing in Super Aged Society

開講年次：1～3年次（通年） 単位数：6単位

原 祥子：地域・老年看護学講座教授	内田宏美：基礎看護学講座教授
小笹美子：地域・老年看護学講座教授	福田誠司：臨床看護学講座教授
橋本龍樹：臨床看護学講座教授	小林裕太：特任教授(前基礎看護学教授)
若崎淳子：臨床看護学講座教授	出口 顯：法文学部社会文化学科教授
稲垣卓司：教育学部心理・発達臨床講座教授	多田敏子：特任教授
小林祥泰：特任教授(前島根大学学長)	塩飽邦憲：特任教授(前環境予防医学教授)
津本優子：基礎看護学講座教授	福間美紀：基礎看護学講座准教授
小黒浩明：医学部附属病院神経内科講師	

1. 科目の教育方針

超高齢社会における看護の質の向上並びに新たなケアシステムの開発を目指した研究活動を展開し、博士論文を作成する。

2. 教育目標

- 1) 特講・超高齢看護学研究演習の進行及び成果と連結させながら、超高齢社会における人々の健康課題解決に有用な研究計画を立案する。
- 2) 研究計画に沿って研究活動を展開できる。
- 3) 分析結果の妥当性を検証し、博士論文を作成する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- ・研究指導教員及び研究指導補助教員の多重支援体制をとり、その指導の下に研究を進める。
- ・多重支援体制は、主研究指導教員と副研究指導教員及び研究指導教員の専門分野や専門領域を補完する研究指導補助教員の3人体制とする。

目安	内 容
1年次	・研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。
2年次	・研究計画に沿って、研究フィールド・協力者への適切な交渉と倫理的な手続きを行い、研究活動を展開する。
3年次	・収集したデータの分析を行い、結果の妥当性を検証したうえで、博士論文を作成する。

【評価】

研究プロセスへの取り組み状況、作成した研究計画書・論文により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) APA (江藤裕之他訳) : APA 論文作成マニュアル, 医学書院, 2004.

5. 研究指導教員と指導の概要

教員	指導の概要
原 祥子	認知症や運動器疾患など高齢者に多い疾病や加齢による様々な障がいに関わる専門的な看護を発展させるための新規性のある研究課題を選定し、関連する医・工分野と連携・融合したこれまでの研究を基に、新たな研究方法論へのチャレンジを検討しながら、目的に即した適切な研究方法を選択・工夫し、先進的な看護学を拓く論文を作成できるよう指導する。
内田宏美	超高齢社会における保健医療・介護の質と安全の向上に資するシステム開発や人材育成システムの開発に関連する研究課題を多面的に探索し、これまで研究を行ってきた社会学や経営学などの関連分野の知見と高齢看護学の融合による研究方法を探索・選択・応用して、目的に即した適切な研究方法を選択し、結果の妥当性を確保した論文を作成できるよう指導する。
小笹美子	人々の生活や環境を包括的に捉え、中山間地の特性に応じた健康生活の支援方法を開発するための研究課題と、コミュニティが弱体化している超高齢地域における災害看護の課題に対して、行政機関や医療機関との連携と協働による研究方法を選択し、目的に即した研究方法の検討、データ収集、分析、論文作成ができるよう指導する。
福田誠司	高齢期の生活に多大な影響を及ぼす健康問題の一つである白血病を含む血液疾患と先天性代謝異常の専門家として、分子生物学分野における基礎医学的研究成果と豊富な臨床経験を基に、新規性のある研究課題を選定し、臨床医学的手法と基礎医学的手法を融合させた研究方法を選択・工夫し、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。
橋本龍樹	地域の実情に応じた、科学的根拠に基づく健康指導・健康管理の方法の開発や効果の検証をするための研究課題を選定し、動物実験による発生工学的手法や分子生物学解析、生化学データの解析や病理学的解析等の医学的研究方法を検討しながら、目的に即した研究方法を選択・工夫し、多角的な視点からデータ収集・解析を行い、論文作成の指導を行う。

小林裕太	超高齢社会における人々の健康課題を環境との関連から捉え、健康を支援する環境づくりや健康長寿に寄与し得る研究課題について生理学的研究方法や薬理学的研究方法を選択し、精度の高いデータ収集・解析、論文作成の指導を行う。
若崎淳子	超高齢社会を生きる視点から、老年看護学とがん看護学の融合により QOL の維持・向上を目指した高齢がん患者のケアの開発やエビデンスの構築に向けて看護学を考究し、看護学の高度な専門知識をもって最新の知見と関連する理論により研究課題を選定し、複数の研究方法論を理解した上で独創的な研究を計画・実行し、論文を作成できるよう指導する。
出口 顯	超高齢社会における人々の健康課題や健康長寿を支える先端医療をめぐる文化的対応の中に研究課題を求め、生命倫理に関する諸問題を文化人類学の切り口で分析した研究の実績を生かし、適切と判断されるテーマについて、エスノグラフィーを行ううえでの倫理と計画的なエスノグラフィー研究を行うための検討、研究計画書の作成、精度の高いデータ収集と分析、論文作成ができるよう指導する。
稲垣卓司	超高齢社会が直面している人間関係の希薄によって発生するライフステージに応じた精神・心理的課題の中から、児童から高齢者にわたる精神科医としての診療・研究を基に、支援方法を開発するための研究課題を選定し、精神医学的方法論も検討しながら目的に即した精度の高い研究方法を選択し、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。
多田敏子	高齢者のストレングスの概念を取り入れた生活習慣病予防や介護予防、高齢者の就業・社会交流と QOL、在宅高齢者のサポート授受、介護家族の QOL、地域の特性を捉えた共助力育成や被災者の生活支援など、超高齢期の健康生活を見据えた研究課題に対して、公衆衛生学との連携と協働による研究方法を選択し、結果の妥当性を確保した論文を作成できるよう指導する。
小林祥泰	超高齢社会における主要な健康問題である脳卒中や認知症、難病等の患者とその家族に対する看護、及び、疾病予防に関連した研究課題について、脳卒中の専門医としての医学的な専門知識を基に、新規性のある研究課題を選定し、頭部の画像診断を活用した臨床医学手法と脳血流量の測定を含む生理学的検査を用いた基礎医学的手法を融合させた研究方法を選択・工夫し、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。

塩飽邦憲	超高齢社会における健康問題の中核をなす肥満、高脂血症、高血圧等の生活習慣病を予防し、人々が健康に老いるために、医療・保健行政・福祉のネットワークによる地域住民主体の健康作りの支援に関わる看護の発展に資する研究課題に対して、これまでの研究成果、および、フィールドワークの成果を基に、主に、疫学的手法を用いたデータの収集・解析・論文作成の指導を行う。
津本優子	地域包括ケア等のネットワークにおける看護情報システムの開発や情報リテラシーを高めるための教育システムの開発に関する研究課題及び安全な健康長寿社会の実現に寄与する観点からの研究課題に対して、疫学統計法・情報学の知見を活用して、データ収集・解析・論文作成の指導を行う。
福間美紀	中山間地における要支援高齢者や虚弱高齢者の支援、疾病予知予防の観点からの健康支援システムの開発に関する研究課題に対して、地域の医療及び保健機関と連携して行ってきた研究を踏まえ、主に疫学的方法やアクションリサーチを用いて、データ収集・解析・論文作成の指導を行う。
小黒浩明	超高齢社会における主要な健康問題である脳卒中、認知症、パーキンソン病等に関連した研究課題について、脳神経系の加齢性変化を踏まえた老年医学の観点からの検討を加えるとともに、臨床医学や医工連携による研究方法を探索して目的に即した適切な研究方法を選択し、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。